

## ご挨拶

### これからの工業教育について

山形県教育庁高校教育課  
主任指導主事 横 戸 隆

昨年3月に高等学校の新学習指導要領が告示され、平成24年度から年次進行で実施されます。中でも専門教育においては、3つの視点から改善の方向性が示されました。

一つめは、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視し、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図るとともに、ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成すること。さらに、資格取得や有用な各種検定、競技会への挑戦等、目標をもった意欲的な学習を通して、知識・技術及び技能の定着、実践力の深化を図るとともに、課題を探究し解決する力、自ら考え行動し適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、学ぶ意欲、働く意欲、チャレンジ精神などの積極性・創造性等を育成すること。

二つめは、将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育、外部人材を活用した授業等を充実させ、実践力、コミュニケーション能力、社会への適応能力等の育成を図るとともに、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせること。

三つめは、人間性豊かな職業人の育成という観点から、人と接し、自然やものとかかわり、命を守り育てるという職業教育の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに、生命・自然・ものを大切にすする心、規範意識、倫理観等を育成すること。

これらの改善の視点を踏まえた専門教育の一層の充実を図ることが求められています。

加えて、今後の工業技術者の育成にあたっては、専門的な技術・技能の習得と共に、技術の信頼性を支える品質管理、生産管理、原価管理の学習が非常に重要であると感じています。ものづくりとその品質については、一つは、「定められた規格への適合の度合」で表わされる生産の効率や製造工程での品質で、QCサークルやトヨタのカンバン方式などは日本発の品質管理として有名です。もう一つが、製品やサービスを、「顧客の要求に対する合致度」で商品品質を表すもので、顧客満足度とも呼ばれているものです。物質的な生活の豊かさから心の豊かさを求める時代にあっては、安さと効率を求める大量生産のものづくりから顧客ニーズを捉えた少量多品種型へのものづくりへとシフトしております。加えて、少々コスト高であっても、安全・安心で、生活に潤いと顧客の感性を揺さぶる美的価値を備えた商品の品質が求められ、企業間競争を勝ち抜く重要な要素となっています。

良いものを安くつくるといのが日本のお家芸ですが、どこの国でも作れるような品を、自動化・省力化を推し進め生産力を向上させ、生産コストを下げる価格競争で勝負をするだけの時代は終わりました。機能的な価値の追求によるものづくりから、少々コスト高であっても、安全・安心で、生活に潤いと顧客の感性を揺さぶる美的価値を備えた商品開発が求められています。

その題材は、日常生活の中にたくさんのアイデアがあり、実際的なものづくり活動に取り組む中で、真に顧客（消費者）の立場からの商品開発のコンセプトやデザインにもとづいた、価値の創造へと結びつくものづくりができる人材が期待されております。

学んだ専門的な知識・技術を活かし、優れたものをつくる、人に喜ばれるものをつくる、世の中のためになるものをつくる。その楽しさと、仕事に対する誇りと夢を持ち、ものづくりをこよなく愛する人づくりこそが、工業教育の使命でもあります。そのための指導法や現在の教育内容を再点検し、各校の特色を踏まえたビジョンや課題等を明らかにし、教職員が一丸となり、工業教育の改善に取り組まれることを御期待申し上げます。